

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年1月12日(2006.1.12)

【公表番号】特表2004-512320(P2004-512320A)

【公表日】平成16年4月22日(2004.4.22)

【年通号数】公開・登録公報2004-016

【出願番号】特願2002-537701(P2002-537701)

【国際特許分類】

C 0 7 C 29/09 (2006.01)

C 0 7 C 29/86 (2006.01)

C 0 7 C 33/46 (2006.01)

C 0 7 C 67/14 (2006.01)

C 0 7 C 69/747 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 29/09

C 0 7 C 29/86

C 0 7 C 33/46

C 0 7 C 67/14

C 0 7 C 69/747 Y

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月26日(2004.11.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

工程a)の水添方法は欧州特許99622号の手法の何れかにより実施し得る。特に適当な方法は水素及びパラジウムの如き金属触媒を用いる。該反応は0℃乃至約60℃で、大気圧から10バールの過圧までで実施し得る。該反応に用いるに適当な溶剤にはアルコール類、ギ酸、酢酸の如きカルボン酸類又は何れかの種類と水との混合物がある。反応に好ましい溶剤は酢酸又は酢酸水溶液である。酢酸のモル比（即ち水添反応でのニトリル基剤1モル当りに用いた酢酸溶剤のモル数）は2～10：1であるのが適当であるが4～6：1であるのが好ましい。